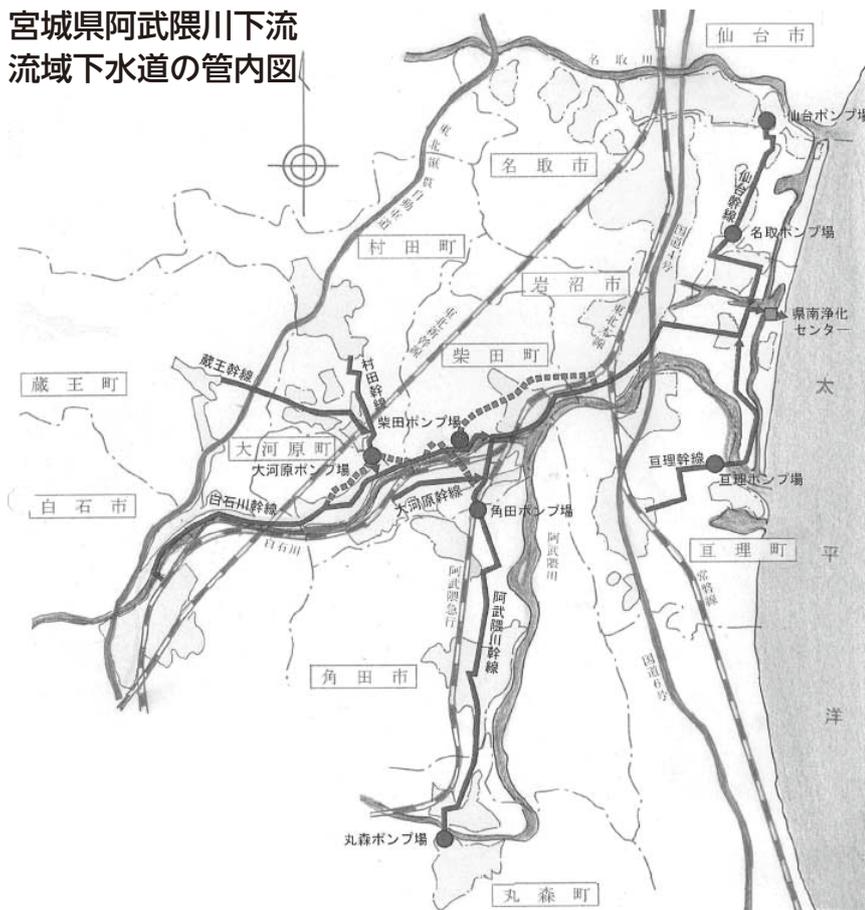


宮城県阿武隈川下流
流域下水道の管内図



復旧の見通しは？

県南浄化センターは全壊状態で、今後、災害査定を受けて工事を進めますが、沿岸部での被災ということから調査が遅れています。

下水処理を行っている自治体は、仙台の一部、白石、名取、角田、岩沼、蔵王、

大河原、村田、柴田、丸森、巨理の5市6町になります。

幹線管路調査を上流の方から行っていますが、沿岸部では海水やごみが入っている上、満水状態になっていて確認できないところがたくさんあります。

中継ポンプ場は、仙台、名取、巨理、角田、丸森、大河原、柴田の7カ所にあります。3月に調査をし

たところ県南浄化センターまで汚水が届くことを確認しています。管路の総延長距離は約90キロメートルあり、今後、全ての管路の漏水点検や正常な状況かどうかの確認を行います。

通常、日量8万5000トンの汚水が施設に入りますが、10万トンの近い汚水が管路にたまっているため、排水してもなかなか水位が下がりません。

岩沼市内を通っている阿武隈川幹線は、国道4号線岩沼警察署付近まで満水になっています。

県南浄化センターの完全復旧まで最短でも3年かかるといわれますが、管路は相当の距離があることから復旧に要する期間が見通せない状況です。復旧費用は概算で約300億円と試算されています。

お願い

この度の震災により飲み水やトイレの水に大変な苦勞をされ、あらためて下水道の重要性を認識されたのではないのでしょうか。

現在は、普通にトイレや台所の水を使用されていることと思いますが、県南浄化センターはまだ仮設運転であることを忘れないでいただきたいのです。ほんのちょっとしたことで下流部のマンホールから汚水が噴出するなどの事故が起きています。

洗濯や食器洗いをする際は、洗剤の量を減らしたり、食器をラップでくるみ、使用後はできるだけ水を使わないようにしていただきたいと思います。また、トイレでは、トイレトーパーなどを直接流さず分別して燃えるごみに出していただきたいと思います。生理用品などが週に4トも流れ込み、除去するにも多額のコストが掛かっています。あわせて、市民の皆さまには節水にご協力をお願いします。



中南部下水道事務所の佐藤所長(右)、水ing(株)の後藤所長からお話を伺いました。